大使コラム（2013 年 9 月）

９月のリスボンは、秋の気配が漂うかと思えば夏の暑さがぶり返す、季節の変わり目らしい気候です。夏期休暇から人々が帰ってきて、静かだった市内には普段の賑やかさが戻りつつあります。新学期もまもなく始まります。今年の夏も雨が少なく、乾燥した気候は南欧の各地で山火事を発生させ、関係者を困らせてもいます。

経済危機でも、ポルトガル人が長い夏休みを取るのは変わらないようです。しかし、観光客が増える時にレストランが長く休むのは、日本人の感覚では理解しにくいところです。消費税の増税で経営が大変な話も耳にするので、尚更そう思います。ただ、最近は休店期間もさすがに以前より短くなる傾向だそうです。

労働時間の問題を見ると、年間の祝祭日を減らす法律は昨年から施行され、また公務員の労働時間は、週３５時間から４０時間に増やす法律が先日公布されました。労働者の既得権益を制限する方向で、労働法も１年前に改正されています。

ただし、公務員の労働時間の延長には社会党が違憲訴訟の構えを見せているほか、先月、余剰公務員の削減策について、政府の政策に3度目の違憲判決が出されました。

このように大きな反発を受けつつも、財政の緊縮政策と平行して、改革は紆余曲折を経ながら、しかし着々と行われてきました。7月の政局でも、緊縮政策の挫折が危惧されながら、何とか当面の事態は乗り切りました。これほどの経済的、社会的負担を負ってもなお、社会の健全さを保っていられるポルトガル人には、温厚な人柄の裏に賢い国民性や芯の強さを改めて感じます。

こうした中で、本年の第２四半期のＧＤＰ成長率と失業率が、それぞれ「前期比」で若干改善しました。建設部門への投資や輸出の増加などが主因のようですが、第３四半期にも観光客の増加を反映して上向きの数字が出てくると予想されます。また、本年は所得税の増税で、税収も若干増えているようです。経済状況は依然深刻ですが、たとえ季節要因や短期的動向の面が強いにせよ、努力目標に向けて数値が好転したのは、危機を乗り越える上で励みになるでしょう。

9月を迎え、政治も経済もこれから秋の陣が始まります。

来年度予算の編成は、7月の政局および内閣と政府組織の改造で遅れ気味のようですが、憲法の規定により今月中旬には国会に提出されます。トロイカの財政支援が明年6月で終了した後の対応について、予算審議やトロイカとの定期協議などで本格的に議論されるでしょう。

また、月末には統一地方選挙が行われます。地方自治体(「市」およびその下位にある「区」)について、市の「政務官」と市議会の「議員」並びに区議会の「議員」の3つの選挙が同時に行われます。それぞれ政党ごとの候補者リストに対する投票で、「拘束名簿・比例代表制」による選挙です。

この制度では、政務官の中から多数政党の筆頭者が市長に就任しますが、ほとんどの場合、政務官には野党の人々が混在する形となります。このため、市長は選挙戦を戦った人々と一緒に行政を執行することになり、行政がやりにくい場合もあるかと想像されます。実際、市長さんの中には、野党の政務官との関係は難しいと話す方々もおられます。

地方自治体の制度は、この他にも事務の効率化や歳出削減の観点から再編成が必要との議論があります。特に、市長と政務官の現行制度は、民主制の理念に基づくとはいえ、どうも不可解に思われます。

なお、地方選挙法により、市長の立候補は3選が限度とされていますが、法律の不備のため、その3選限定が同一自治体での立候補に限られるのか、それとも別の自治体での立候補にも適用されるのかにつき、憲法裁判所に提訴されています。

いずれにせよ、全国各地で既に選挙戦が始まっており、政党の集会などが行われ、また首長候補者の選挙ポスターが至る所で見られるようになっています。選挙予測は、全体では社会党など野党が有利とみられています。ただし、地方選挙は首長の個人的な人気に左右される面も大きく、また先月の世論調査で与野党の支持率の差が縮まっているとの報告もあり、与党の社会民主党も大敗しないとの見方も出ています。

日本との関係では、丸紅(株)が先月初め、ポルトガルで発電資産を保有するフランス企業と、その株式の50%を取得することで合意した旨の発表がありました。右発電資産は当国の総発電設備容量の約17%(約3300MW)を占めるもので、丸紅による株式取得は、ポルトガルでの発電産業への日本企業の新たな参入として、意義の大きいものです。

丸紅ユーロパワー社は、7月に当国を訪問した経団連ミッションにも参加されました。これまでポルトガル政府の最高レベルから、日本企業の当国へ

の投資に強い期待が度々表明されており、右発表は二国間関係からも嬉しいニュースです。

８月は数が少なかった「日・ポ交流４７０周年記念行事」も、９月からまた色々と続きます。最初のイベントは、裏千家の「輝環会」による日本の伝統文化の紹介事業で、「オリエント博物館」と協力して行います。

大使館では、これからもポルトガルの政治、経済、社会の事情を注意深く観察し、両国関係の発展のため、文化交流だけでなく、政府間のハイレベルの人的交流や経済面での協力も含め、具体的な事業の企画、実施に努めたいと考えています。引き続き皆様のご協力をお願い致します。

さて私事になりますが、この度、在ポルトガル大使の任務終了の辞令を受け、来る１０月初旬に離任することとなりました。三ヵ年ほどの当国勤務となりますが、この間、ポルトガルの実情を少しでもお伝え出来ればと願い、拙文を毎月書かせて頂きました。多少なりとも、皆様のご参考になれば幸いに存じます。

今回が、在ポルトガル大使として最後のメッセージです。これまでお読みいただき、心から御礼申し上げます。

皆様におかれましては、今後ともご自愛のほどをお祈り申し上げ、御礼と最後のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

在ポルトガル共和国大使
四宮　信隆